

東松島市立大曲小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 『東日本大震災における学校の対応-大曲小学校』宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12401.pdf>

【場所】

海岸から約2.5kmの位置にある。
住所:宮城県東松島市大曲寺前5-2



【東日本大震災による被害】

校舎1階と体育館が津波により浸水。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、1・2年生は下校が始まっており、教室に引き戻して待機させた。2年生の児童4人がそのまま下校していたが後に無事が確認された。14時55分頃、児童は全員教職員の指示で校庭に一次避難を行い、15時10分頃から担任が保護者に児童の引き渡しを開始した。同じ頃、避難してきた地域住民を避難所に指定されていた学校の講堂に誘導。また、保護者の引き渡しを待つ児童も教員の誘導で講堂へ移動した。引き渡された児童の内11人は後に津波によって亡くなったことが確認されている。

15時30分に教頭が携帯電話のワンセグテレビで「女川町6m津波」の情報を入手し、校長へ伝達した。校舎3階への避難に切り替え、児童と地域住民を講堂内から校舎への避難をまぼ完了した15時50分に津波が押し寄せた。講堂の周辺に残っていた地域住民に津波襲来を大声で呼びかけ校舎に避難させ、避難は完了した。(1)

【調査して言えること】

海から約2.5km離れているが、学校の標高は約0.8mで300mほどの距離に川も流れているため、地震の際津波を警戒する必要がある学校である。学校の周囲に、高台や高い建物が無いので、学校外の避難は難しい。また、今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域からは1.6kmほど離れている。



南から見た学校(2014/11/1撮影)



二次避難場所の講堂(2014/11/1撮影)